

企画旅行 欧州の奥の細道ルーマニア の春12日間に参加して

菊池幸男・すみ子

日程：2015年5月5日～16日

リーダー：渡辺節子

参加者：計11名

3年前に訪れたルーマニアは体調不良で周遊が叶わず、ブカレスト滞在が主となってしまった。

いつかまたルーマニアへ行きたい！という思いでいたら、WSCでツアーの募集があった。

どのような旅行かと調べてみると、マラムレシュ地方など行けなかった見学地の名前を見て、早速家内と相談し参加することに決めた。

5月5日イスタンブール経由でブカレストに集合、総勢11名の皆さんは後に海外旅行のベテランであることを知った。

リーダーの渡辺節子さんは国際派で昔JTBルック専任のコンダクターで、ヨーロッパや海外旅行を熟知する方、安心感と期待感が高まりました。

現地ガイドのアンドリューさんは日本語が堪能でルーマニアのすべてを熟知する方、先日のテレビ番組にも登場していましたが、旅の成功はガイドさんの力量にかかっていると言われます。とても満足しました。

現地集合、現地解散は初めてのことで、「自己責任の個人旅行」ということで常に緊張感を持ち、しかし見るべきもの・体験すべきものをしっかりと行動できました。一般のツアーではありえない充実感があり、さすがWSCだと実感した。

特に印象に残っているのは

① ブラショフの「武蔵野交流センター」で行われた学生や市民との交流会でした。

折り紙や書道など日本文化を伝えたり、日本の歌を全員で合唱したりと、終始和やかに過ごせました。

② 農業国と言われるが、世界で一番広い菜の花畑には圧倒された。どこまでも続くひまわり畑、馬車は今でも大切な交通手段であり農耕の手足なのです。

ヴィスクリ村では要塞教会を見学後、馬車で羊の群れを追いかけに行きました。まさしくヨーロッパの田舎そのものです。

③ 食べ物はルーマニア料理が中心で、朝昼晩3食とも盛りだくさんの料理でした。

一部を紹介すると、シナイア近郊のワイナリーでのランチはワインをいただきつつスープ、サルマーレ(ルーマニア風ロールキャベツ) ママリガ(とうもろこしの粉を用いた粥) パン、デザートにチーズケーキ。

毎日昼・夕食はワインで乾杯、ルーマニアのワイン

は世界的に有名だとか。

夜、ホテルのロビーでワインパーティーもたびたびでした。

シック村では農家で自家製のご馳走をいただき、交流を行った。牛乳と小麦粉を材料としたケーキ作りは私達も体験、パプリカ、豚肉、ジャガイモで作られたスープも絶品だった。

④ マイケル・ジャクソンがコンサートを開いたという国民の館、“吸血鬼ドラキュラ”の居城のモデルとなったブラン城、ルーマニアで最も壮麗な城と称されるペレス城、マラムレシュでは世界遺産である木造教会の幾つかを見学した。17～18世紀に丸太を使って造られたという教会は、今でも風雪に耐え人々の祈りの場となっているとか。

スチャバ近郊の世界遺産「五つの修道院」が一番行きかかった所。外壁のフレスコ画が今でも鮮やかに残され、信仰の強さを感じさせます。オスマントルコとの駆け引きも大切な要素だったようだ。よくぞ風雪に耐えて持ちこたえており、見学者に感動を与えているなど感心しました。

今回の旅行は、個人旅行ではなかなか見学しきれない所へ行け、現地での交流会を楽しめ、各地の一般家庭で手料理のおもてなし、ケーキ作り体験、地酒試飲など貴重な体験をさせていただきました。

リーダーの渡辺さん、ガイドのアンドリューさん、そしてご一緒した旅の仲間みなさん、楽しい良き思い出が作れたことを感謝しています。



写真提供：渡辺節子

参照

<http://www.shejapan.com/tours/voice.htm>